

卒業生のお話を聞きました！

2学期が始まり、1週間が過ぎました。どのクラスも授業中、集中して、取り組んでいる良い雰囲気です。9/5日(金)⑥総合の時間に「卒業生のお話を聞く会」がありました。夏休みに卒業生3名が来校し、「中学校生活(授業の受け方や、定期テストの勉強)」「進路先の決め方」「高校生活」などについて話して下さいました。感想を載せます。

先輩方の話を聞き、当たり前のことをやる大切さを改めて知った。実行してみたいことは3つあり、1つ目は、苦手教科から目をそむけず、しっかり向き合うこと。得意にする必要はなく、最低限のラインに届かせることが大切。2つ目は、1回1回の授業を大切に、集中すること。もちろん1回1回の授業の内容は違うので、1回の授業を寝てしまったら、その後の授業が分からなくなる場合があるから大切に、その授業を全部覚える気合で授業を受けることが大切。3つ目は、自分にできることを全て全力でやること。受験が近づくともう少し勉強をちゃんとやっておけばよかったと後悔する可能性が多くあり、自分にできることをやっておけば、やらないで後悔するより、やって後悔した方が良かったと思ったから。少しでも合格に近づけるためにできることは全てやる志が大事だと思いました。

(D組 さん)

私は、今回の話を聞いて、努力するための第1歩を踏み出さなければならないと思いました。今の自分は、スマホを触ったり、疲れたことを理由にしたりして、勉強というアクションの1歩を踏み出すのが遅れています。けれども今回の先輩方のお話では、今できる全力を出すことが重要だとおっしゃっていました。これからは、毎日、自習に行くなど環境を利用し、努力するための1歩を踏み出していききたいと思います。また、学校を決めるなどの大きな選択は他人に委ねることのないようにして、自分で決められるようにしたいです。

(D組 さん)

先輩たちの話を聞いて、まず、苦手な教科を克服したいと思います。学習の時間を増やして、漢字や英語の単語を覚えるようにしたいです。諦めることはダメです。集中して授業

を聞くことや手を動かすことも大切だと分かりました。これからもこれらの方法を使って進歩したいと思います。最後は、自分で決めることは重要だということです。親や先生たちのアドバイスを聞いて、責任をもって、自分の進路や高校を決めたいと思います。

(A組 さん)

僕は、苦手な教科が多いので、それらの勉強をする時にあまり前向きにやろうとしていなかった。阿部先輩の話の「苦手を克服することは難しいけれど、しっかりそれらに向き合うことで受験本場の不安をなくせる」という話が印象に残りました。これからは、苦手教科に対して、苦手意識をあまりもたないようにして勉強していきたいです。また、鈴木先輩の話で「自分で決めることが大切」とおっしゃっていたので、自分でいきたい高校を探して、決めたいです。

(A組 さん)

今の時点で模試の結果が低くても気にせず、学校や塾の授業をその場ですべて覚える位の勢いでしっかり聞いて、復習もしっかりしようと思った。また、分からないことは先生にその場で聞いて、分からない所を無くすなど、自分にできることを1つずつ確実に潰して、苦手な教科は平均点以上を目指し、得意な教科は今よりさらに確実に点数を稼ぐことを目指そうと思った。今の自分は、高校に行けるか心配だったけれど、先輩の話を聞いてまだ諦めるのは早いのだと思った。

(B組 さん)

苦手でもできることを見つける。1回1回の授業を大切に集中する。自分で決めたことは、やりきる。最終的に色々なことは自分で決める。健康的な生活を心がけて体と心を安定させる。

(C組 さん)

苦手教科を苦手だと割り切ってやってこなかったから、今からでも数学の公式の見直しや、英語の文法の確認をしていきたい。また、規則正しい生活をする中で、授業中眠くならず、集中して取り組める、良いことしかないことに改めて気付かされたから、規則正しい生活をしていきたい。何事にも中途半端に終わらせず、最後までやりきる覚悟をもちたいと思った。

(B組 さん)

苦手なものを克服する方法として挙げられていた。できることを見つけてという方法を試して、再来週に控えている中間考査に向けて、しっかり勉強したい。また、自分で決めることが大切だと言っていたので、より真剣に進路について考える必要があると思った。

(C組 さん)

今日から、一つ一つ有言実行していこう!!

新聞の記事より

朝読書を始めて、3年目になります。夏休みは、机の上に山積みになっていた大塚先生から借りた本を読破しました。新聞に気になる記事が載ってました。全国学力調査の結果と情報機器との関連、読書量との関連は、予想通りだなと思いました。他に東京大学の酒井教授（言語脳科学）の研究チームが、学生の読み書きに関する実態調査結果を発表した。大学などの講義内容を記録しない学生が1割、本や新聞、雑誌いずれも普段読まない学生が2割に上った。回答者の一部に日本漢字能力検定協会の「文章読解・作文能力検定」準2級の問題をやってもらった。その結果、講義内容を記録する学生の正答率は57%に対し、記録しない生徒は32%で大きく下回った。「図や文章の内容をほとんど理解できていない」水準。本を読む学生の正答率は56%、読まない学生は39%だった。酒井教授は、「日常的なメモの取り方や読書習慣が文章の読解力や論理的な思考力に関係することが明確に示された。近年デジタル機器の急速な普及により、手書きや読書の習慣が失われて、大きな問題を及ぼしている恐れがある」とする。この記事を読み、皆さんはどのように感じますか？

で団結文化発表会の取り組みが進んでいます！

10/9(水)に文化発表会があります。自由曲・課題曲が決定し、各クラスの目標に向かって練習に取り組んでいます。文化行事委員会やパートリーダーを中心にクラスで団結し、きれいな歌声を響かせましょう。